

滞日外国人のことばと医療を支援する人づくり、しごとづくり事業【京都府】

事業概要

滞日外国人が直面する言葉、こころ、制度のバリアをなくすため、プロの医療通訳・翻訳の人材育成を行い、医療通訳体制の充実を図る。

委託先

NPO法人多文化共生センターきょうと
(本社:京都府京都市)

事業費

平成21年度	400万円 (実績)
平成22年度	700万円 (計画)

雇用創出数

6人

事業開始時期

平成21年9月

新規雇用者が従事する業務の内容

- 医療通訳派遣事業の立ち上げー医療通訳者の養成と派遣(英語・中国語)
京都府内の医療機関へ通訳者を派遣。派遣困難な地域には電話での通訳、翻訳などを行うシステムの立ち上げと医療通訳者の育成。
- 多言語による医療情報の提供(web)(英・中・ポルトガル語等)
webを利用して多言語での医療情報提供、外国人対応の医療者支援、翻訳サポートを行う。

京都府



地域の雇用失業情勢 (事業開始時の有効求人倍率)

京都府 0.48倍 (季節調整値)



【医療通訳者養成講座】

雇用創出効果以外の 事業実施効果

- ・日本人でなく外国人人材を医療通訳者として育成することで、多様な人材の能力を生かし、多文化共生分野における新たな人材活用となる。
- ・外国人住民もまた、安心して健康に暮らせる社会づくり、地域づくりをめざし、内なる国際化を進める。

団体代表者の声

医療通訳の存在は、異文化の中で子供を産むお母さんや家族にとって不安を緩和する存在であり、言葉と文化の橋渡しです。私たちは在住外国人や渡航者が多くなった日本の地域社会において新たなニーズとして生まれてきている命にかかわる課題を解決する新事業として「ことばで命を守る専門通訳」の育成に取り組んでいます。新たなスタッフと雇用したことで、新たな事業の基盤整備、実施が可能になっただけでなく団体やスタッフに新しい視点と活気ももたらしてくれています。



【代表 重野亜久里】

新規雇用者の声

医療通訳派遣事業の事業コーディネーターの仕事をしています。始まったばかりの事業で周知には時間がかかりますが、利用者から「通訳者さんと母親学級に参加して言葉の壁がなく安心した」との声をいただいております。もっとたくさんの方の「ことばの壁」を無くし、「安心」を届けたいと思っています。

事業の利用者の声

「通訳者がいなければ母親学級(両親学級)の存在を知りませんでした。」「主人と一緒に母親学級(両親学級)に参加して、通訳者を介して妊娠・出産の体験をし、妊産婦の大変さを実感してくれたことはとても心強く思い大変満足しています。」(セネガル出身の当通訳利用者コメントより)

今後の事業展開

滞日外国人だけでなく、医療観光などを含めた海外からの観光客は今後も増加し、医療通訳のニーズも今後一層高まっていくと考えられます。ビデオ電話やインターネットを利用した通訳対応なども視野に入れ、継続的に通訳派遣を行える事業を目指します。



【両親教室にて通訳】